



国指定史跡

山中城跡

三島市教育委員会

発掘、復元された戦国山城

山中城は、戦国時代末期の天文年間から永禄年間(1530～1560年頃)、後北条氏によって築城されました。山中城のある伊豆地方北部は、武田・今川領と国境を接しており、本城である小田原城にとって西方防御の要の地でありました。天正年間、全国制覇をめざす豊臣秀吉が小田原攻めに着手すると、山中城は韮山城、足柄城とともに最前線の軍事拠点として重要視され、堀や出丸などの大改修が行なわれました。天正18年(1590年)3月29日、6万7千の豊臣軍の総攻撃を受け、4千の北条勢は必死に防戦しましたが、多勢には如何ともしがたく、わずか半日で落城しました。豊臣方で一番槍を果たした渡辺勘兵衛の「渡辺水庵覚書」は、この戦闘がいかに凄まじいものであったかを物語っています。いま、三ノ丸にある宗閑寺境内には城主松田康長以下、敵味方の武将の墓がひっそりと苔むして並んでいます。



復元・整備された障子堀

山中城は後北条氏の築城技術を駆使して造られた城で、戦国時代末期の山城のようすが大変よくわかります。三島市では、400年間埋もれていたこの山城の発掘調査を、昭和48年から開始しました。発掘調査により、曲輪の周囲に巡らされた堀や土塁などの防御施設、堀の上に架かっていた木橋の跡や門柱跡などが明らかになりました。なかでも「障子堀」や「畝堀」は後北条氏の城に特徴的な堀の形で、堀の中に土手状の畝を掘り残して区画し、上からみると障子や畝のように見えることからそう呼ばれています。出土品には、鉄砲玉・石つぶて・兜の前立などの武器・武具・陶磁器や古銭・キセルなどの日用品があります。



至三島

田方平野

国道1号線

すりばち
曲輪

二ノ堀

岱崎出丸

休憩所

御馬場曲輪

箱根旧街道

史跡山中城跡

山中城跡は箱根西麓の尾根上に築城された山城です。山田川や来光川の源流に挟まれ、急峻な斜面にかこまれた自然の要害の地につくられました。城の範囲は東西 500m、南北 1,000mに及びます。城からの展望はよく開け、西櫓からは御殿場・裾野方面が、台崎出丸からは伊豆北部と駿東の大半を一望のもとに見わたすことができます。





愛鷹山

富士山

箱根山

西木戸

櫓台

西櫓

休憩所

曲輪

物見台

西ノ丸

溜池

元西櫓
二ノ丸橋

帯曲輪

二ノ丸

本丸西橋

北ノ丸

尻の池

弾薬庫

本丸

天守台

本丸北橋

山中公民館

箱井戸

兵糧庫

休憩所

矢立の杉
県指定天然記念物
大カシ

至箱根峠

ノ丸

駒形諏訪神社

バス停
「山中」

山中新田

国道1号線

バス停
「山中」

昭和9年1月22日

●面積 117,856.91㎡

●公有地化面積 83,540.50㎡

●整備面積 75,479㎡

いま、よみがえる戦国のロマシ

山中城は戦国の世を今に伝える大切な文化遺産です。そのため、三島市では発掘調査の成果に基づき山中城を復元・整備し、史跡公園としてひろく開放しています。とくに堀と土塁は上面に芝を張って保護し、周囲の自然と調和させるとともに、特徴的な堀の構造がよくわかるように配慮しています。木橋の復元、兵糧庫を模した休憩所の設置などわかりやすい立体的な整備も進めています。山中城の武将や兵馬の大切な飲料水を提供した箱井戸や田尻の池は、いまでは美しい季節の花を咲かせて来訪者を迎えています。



箱井戸に咲く睡蓮すいれん

見学コース

戦国山城探訪コース (約2時間半)

駐車場→北条橋→箱根旧街道石畳→岱崎出丸(御馬場曲輪、畝堀、すり鉢曲輪など)→三ノ丸堀→田尻の池→箱井戸→二ノ丸門→二ノ丸→二ノ丸橋→元西櫓→西ノ丸→畝堀・障子堀→西櫓→西木戸→外周道路→溜池→北ノ丸→本丸北橋→天守台→本丸→天然記念物(矢立の杉、駒形諏訪神社の大カシ)→兵糧庫→本丸西橋→二ノ丸→箱井戸→宗閑寺(北条・豊臣武将の墓)→駐車場

障子堀・畝堀探訪コース(約1時間)

広場→三ノ丸堀→田尻の池→西ノ丸→障子堀・畝堀→西櫓→箱井戸→宗閑寺→広場



台崎出丸



出土した陶磁器

交通機関

バス (箱根登山東海バス「山中城跡」・「山中」下車)

三島駅 - (30分) - 山中城跡 - (20分) - 元箱根

タクシー

三島駅 - (20分) - 山中城跡

問合せ先

〒411-0858

静岡県三島市中央町5番5号

三島市教育委員会文化振興課

TEL 055-983-2672

E-mail:bunka@city.mishima.shizuoka.jp